



第3回 (仮称) 地域・世代間交流部会【摘録】



日時：平成24年12月12日(水)18:15~20:10

場所：宮前区役所4階第1会議室

【進行：大槻部会長】

1 出席確認

欠席：なし

2 前回会議摘録の確認

別紙配布資料に基づき確認

3 具体的な課題解決への提案を検討

関係者出席：山田課長（こども支援室 学校・地域連携支援）

- ・学校支援センター活用状況について、別紙配付資料に基づき山田課長から説明
- ・区内小学校アンケート調査結果について（地域との連携活動）、別紙配布資料に基づきコンサルから説明。（中間資料であるため、会議後回収）
- ・その後意見交換→別紙のとおり意見集約

4 部会名

未決定 検討課題の絞り込みがまだ充分でないため

5 今後の日程

第4回 1月10日（水）18:15～ 区役所4階第1会議室

テーマ：地域・世代間の交流

【総論】 学校支援センターの現況、区内小学校を対象に行った地域の連携活動、授業における地域人材の活動等に関するアンケートの結果を踏まえ、学校と地域の連携強化、世代間の交流に向けた課題を整理。

【キーワード】

組織関連系、コーディネート
情報発信、人材発掘、

学校と地域の連携強化、世代間の交流に向けた課題整理

学校支援センターの課題

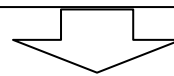
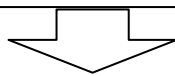
- 他組織との連携**
 - 特別支援級支援には教育委員会依頼NPO以外に、社協のボランティア等とも連携できる（太田）
 - 地域教育会議、学校教育推進会議の場を活かした連携や呼びかけが必要（大槻、太田、平井、山下）
- 広報の強化**
 - ボランティア募集の広報が市民館へのポスター掲示などのみとなっており、弱い（山下）
 - 社協で発行したボランティア情報紙のようなものがあって良い（太田）
 - こういう事例もあるという情報発信、手を挙げてもらえるような案内・広報活動が必要（太田）
- コーディネート機能（学校単位）**
 - 交通費が出ない中、ニーズだけでなく地区もマッチしなければなかなか派遣できない。（事務局）
 - 区に一つの支援センターで全ニーズを抱え込むのは難しいようだ（事務局）
 - 学校毎のコーディネート機能が、先生に負担をかけない形でできると理想だ（山下）

小学校の課題

- 教員の負担減**
 - 新指導要領で自由に使える時間も減った教員をサポートできるしくみがあると良い（大槻、直本）
 - 教員の異動周期が短くなり、地域との関わりを深める時間も減ってきている（事務局）
- 責任の明確化・軽減**
 - 安全確保、個人情報の問題などもあり、学校側が慎重になっている面もある（事務局、田浪）
- しくみづくり**
 - 現状は教員やPTA、OBの個人的つながりがベース。地域と組織でつながるしくみが必要（宮崎）
- 情報発信**
 - 回覧での学校だよりは、他の多くの資料中に埋もれてしまい、読まれない（太田、平井、直本）
- 場の開放**
 - 学校を、地域の様々な人が集まり、話す場として開放していくことも重要だ（大槻）
 - 地域の人を学校に入れるだけでなく、学校側から地域に出て行く視点も必要（平井）

地域・全体の課題

- 自治会強化**
 - 自治会・町内会加盟員は一部の役員以外、地域の情報をほとんど知らないのが現状（山下）
 - 子ども会の弱体化。地域で地域の子ども、教育を考え、ニーズに答える体制、しくみづくり（山下）
 - 町会に入るメリットをもっとアピールすべき。防災のことなど（直本）
- 潜在人材の発掘**
 - 学校側は地域とかなり連携しようとしているが、親が地域や学校と関わろうとしていない（平井）
 - ボランティアの話に乗って来ない周囲。好きな人がやっていたら良いというスタンス（佐藤）
 - 社協のハンディキャップスキー教室の例など、目的があれば、若い世代も集まってくる。（太田）
 - 地域や学校のニーズと地域の潜在的人材がまだうまくつながっていない（直本）



以上の課題を踏まえた、具体的取組提案の検討